「第138回秋季講演大会に寄せて」

講演大会協議会　議長　岡田　康孝

1. はじめに

秋季講演大会は例年より遅く、11月20日より3日間金沢工業大学で行われる。寒さを懸念される方もあろうかと思うが、施設は充実しており、良好な環境で活発な討議が行えるものと期待している。

2. 講演大会の新たな動き

講演大会は鉄鋼協会の「顔」として会員の皆様に最も近い存在であるが、国内外の情勢変化、進歩的な他学会の状況を考慮し、以下のような内容を基に改革を進める予定である。

(1)国際セッション、シンポジウム、重点セミナー、招待講演等を中心に工夫を凝らした大会とする。
(2)協会の各種活動の成果報告や、各種情報の受発信の場とする。
(3)ユーザーサイドの学協会(自動車、造船、土建他)との共催の討論会を増やす。
(4)ジュニアパーテイの充実によるコミュニケーションの促進。

既に、国際セッションについては、会告にも掲示した通り、秋季講演大会から実施することになった。これは講演大会の国際化、本講演大会を国際舞台での求心力とし情報発信基地とすることを狙ったものである。また、ユーザーの講演大会への参加は重要な課題であるが、今後具体的に進める所存である。

改革には会員の皆様からのご意見とご賛同が不可欠である。皆様からの積極的なご意見をお願いしたい。

3. 秋季講演大会の動向

先ず全般的な状況として、発表件数は、前回の春季講演大会に続いて、今回も前秋季大会より増加し、下げ止りがほぼ確定した。特に国際セッションを設けた影響もあり、海外からの発表が増加している。

また、企画ものでは討論会11件(91)、シンポジウム12件(106)、予告セッション5件(31)、国際セッション4件(47)(数字は発表件数)で多く、発表件数では全体の38%にも達した。

1）一般講演

一般講演も昨年の秋季大会の512件から519件と微増している。今回の特長は、高温プロセス部会のコークス関係、創形創質工学部会の切削、材料の組織と特性部会の高温材料が挙げられる。

予告セッションは「(高)塊成鉱の組織形成と鉱石接合技術」、「(社)鉄鋼業と社会・産業システム」、「(計)高性能生産を支えるロバスト計測技術」、「(創)難削材料をさまざまな角度から考える」、「(材)磁気特性と材料信頼性」の5件である。いずれも最新技術に関する意欲的なものであり、聴講をお勧めする。

2）討論会

今回は11件の多数の発表がある。具体的には「高炉操業に及ぼす炉下部現象の影響とその制御技術」、「介在物の生成、除去および評価に関する現状と展開」、「鋼管製造における最近の計測技術の動向」、「棒鋼・線材の材料とプロセス技術」、「冷延薄板の現状における板厚精度と制御技術」、「細粒鋼のHAZ特性と溶接」、「鍛造・押出し加工のモデリング最前線」、「超微細組織鋼のメタラジー」、「材料評価における極微量元素分析の最前線」、「フローインジェクション分析法の鉄鋼関連分析への応用」、「製鋼工程における分析の高速化・高感度化の現状と将来展望」で特に分析関係で最新の技術報告がある。また介在物や棒鋼・線材のプロセスは材料から見ても興味深い。

3）シンポジウム

今回、「ごみ処理とパイロメタラジー」、「石炭粒子の粘結現象発現機構の解明とそのモデル化」、「製鋼スラグ極少化に向けての開発動向と課題」、「材料超音波プロセシングの新展開」、「環日本海地域の鉄文化の展開」、「大規模複雑系へのアプローチ－21世紀の鉄鋼業を変革する新システム技術」、「ロール長寿命化のための解析技術」、「高機能鉄鋼製品製造のための材料・プロセス技術」、「21世紀を展望した塗装・被覆鋼板」、「地球環境を守り、新エネルギを拓くステンレス鋼」、「構造材料の環境脆化における水素の機能に関する研究(水素の状態分析)」、「相分解による微細組織形成に関する実験的並びに理論的研究の最前線」の12件が予定されている。大部分は研究会、フォーラム、自主フォーラムの成果発表であるとともに、21世紀を見据えた新技術が発表される。

4）国際セッション

今回の講演大会から実施するもので、セッションA「Interfacial Phenomena in Welding and Joining」、セッションB「Physical Chemistry of Melts for Metal Refining」、セッションC「High Temperature Properties of Silicon under Gravity and Micro Gravity」、セッションD「Microstructural Development and Mechanical Properties for High Strength Steels」の4件が予定されている。内容はもちろんであるが、これから国際舞台に立つ若手技術者・研究者・学生諸氏には、是非聴講願いたいとともに、次回以降の参加をお願いしたい。

以上に述べたように今回も盛り沢山な講演が予定されており、多数の参加をお願いするとともに、ユーザーの皆様にも積極的な参加を歓迎する。

以上

(1999年7月23日受付)